平成 30 年度厚生労働科学研究費補助金
（循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業）
分担研究報告書

12. 若年層における健康格差の見える化にむけた地域診断システムの可能性

研究分担者　斉 藤 雅 茂（日本福祉大学社会福祉学部　准教授）

＜要旨＞

研究要旨：本研究では、兵庫県A市における若年層（20 歳以上 65 歳未満）対象調査データを活用し、若年層における健康格差の見える化にむけた地域診断システムの可能性を検討した。過去に開発した高齢者の健康格差の見える化を目的にした「JAGES 地域診断システム」をプラットフォームとし、若年層調査データを追加した。分析の結果、若年層においても、「友人と会う頻度」、「友人 10 人以上」、「スポーツ」などといった他者との交流に「健康格差縮小」の可能性があることが示唆された。また、「飲酒」よりも「喫煙」に、健康を阻害するリスクが大きいことも示唆された。高齢層との比較では、多くの指標が年代に関わらず同様の関連を示すことが明らかになった。「スポーツ」は年齢層に関わらず幸福や健康との正の相関が高かったのに対し、「趣味」は、若年層では幸福や健康との関連は弱かった。「孤食」や「独居」にも、年齢層による違いがあった。若年層では「孤食者」の割合が多いほど健康度自己評価が高い地区であることが示され、「独居者」の割合も若年層では健康度自己評価との関連は弱く、「孤食」や「独居」の健康への影響は、若年層と高齢層とで異なることが示唆された。若年層でも地区単位での差（分散）が確認され、データに基づく地域診断によって健康格差を見える化することの有用性が示唆された。また、若年層と高齢層では異なる関連も示唆されており、若年層に適した新たな診断指標群の抽出はさらなる検討が必要といえる。

神戸市の行った調査に協力して集計・分析を実施した。データの研究への二次利用について神戸市の倫理審査委員会の承認手続き中であるため、神戸市に報告済みの要旨のみ掲載した。神戸市の報告書は巻末の参考資料を参照のこと。